

別紙（中間評価書）

平成 30 年度文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

<p>通し 番号</p>	<p>1 1</p>	<p>事業区分：劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業 助成対象団体名：公益財団法人兵庫県芸術文化協会 兵庫県立尼崎青少年創造劇場 施設名：兵庫県立尼崎青少年創造劇場</p>
<p>助成対象活動に関する評価</p> <p>（妥当性）</p> <p>兵庫県が策定した「兵庫県芸術文化振興ビジョン」を踏まえた尼崎青少年創造劇場のミッション、ビジョンと事業計画の整合性については明確で、これらの達成に向けて事業が適正に組み立てられていると認められる。</p> <p>尼崎青少年創造劇場は開館から 40 年を超え、舞台芸術を核に青少年の創造活動を高めるという基本方針のもと、演劇学校・舞台技術学校及びピッコロ劇団を運営することにより、地域の創造活動を進めてきている。その機能を活用しながら、1 年間で 8 千人の域内の小中学校の児童生徒を対象とする鑑賞体験事業、文化セミナー等を開催し、様々な年齢層、あらゆる人々が芸術文化を享受できる社会基盤の構築を目指すなど、助成に値する文化的、社会的意義等が認められる。</p> <p>（有効性）</p> <p>目標の達成に向けて、事業が着実に推移していると概ね認められ、アウトカム発現の可能性に期待が持てる。</p> <p>（効率性）</p> <p>事業はほぼ計画通り実施されており、事業期間は適切であったと認められる。</p> <p>一方、事業費については、概ね適切であったと認められるものの、相当数の活動において、要望時の予算額と報告時の実績額との間で乖離を生じており、今後、より実効性のある予算積算と適切な予算管理が望まれる。</p> <p>（創造性）</p> <p>当該劇場では、プロの専属実演家集団であるピッコロ劇団と、演劇学校・舞台技術学校を有するという強みを生かし、作品創造を中心とした公演事業と人材育成に取り組むとともに、各種の鑑賞サポートにも積極的に取り組んだ。</p> <p>ピッコロ劇団公演を中心に据えつつ、東日本大震災復興支援から始まった東北の劇団との共同事業や、地元出身者が主宰するパントマイムカンパニーによるノンバーバル作品等、多様な公演事業を実施した。活動調査においては、一部の俳優には歌唱力や演技面に課題が見受けられたものの、幼児・中学生・ファミリー向けと多世代に目配りをした演目構成や、地域に材を取ったプロデュース公演などの実現には、劇団の存在や劇場の培ってきた人的ネットワークが大きく寄与しており、独創性が認められる。また、パントマイムの公演は、演劇・マイム・スポーツを融合した作品であり、新規性が認められる。</p>		

別紙（中間評価書）

「ピッコロわくわくステージ」「おでかけステージ」では、県内の小中学生向けの鑑賞機会をピッコロ劇場で提供するだけでなく、県西地域のホールや県内小学校体育館でも提供し、県内における鑑賞機会の格差是正に寄与した。

観劇サポートの一つである音声ガイドでは、劇団員がガイドを務めていることから、作品を深く共有した一体感ある優れた音声ガイドとなっていた。他にも、字幕や手話通訳、ポータブル字幕器の貸し出しなど、対象に応じた多様な鑑賞サポートに積極的に取り組んでおり、先導性が認められる。

演劇学校・舞台技術学校では、関西地域を拠点とする人材、他地域からの人材、学校OBらを講師に配し、それぞれ51名、30名を養成した。演劇学校では、アートマネジメント研究講義において、東京オリンピックや大阪万博の開催による国際化といった近年の変化を捉えた内容とした。舞台技術学校では、劇場付属の学校である利点を生かし、劇場を使って実践的に学べる場を提供した。講師陣の選定やカリキュラムには、これまでの蓄積が活かされており、地域では貴重な恒常的に演劇を学べる場を維持し、地域の創造活動を支える人材の養成機関として大きな役割を担っていると評価できる。平成30年度までに両学校の卒業生は延べ2,600名を超えており、特徴ある取り組みとして独創性が認められる。

劇団代表である岩松了が、県立ピッコロ劇団における創造発信、ピッコロ演劇学校での人材育成等への貢献から、平成30年度兵庫県文化賞を受賞した。また、『小さなエイヨルフ』で舞台美術を担当した舞台美術家で、舞台技術学校の講師でもある加藤登美子が第46回伊藤喜朔賞を受賞した。また、アクセシビリティ向上の取組も、8紙に掲載されるなど注目度も高かった。事業実施によって、国内での評価の向上につながっていると認められる。

（持続性）

組織面では、安定的に適正な人員の正規職員を確保しており、専門的な人材育成に努めている。

財務面では、県との密接な関係を基礎とした安定的な財務基盤の確保がなされている。

以上のことから、組織活動が持続的に発展し、アウトカムの発現・定着が期待できると認められる。

（総 評）

兵庫県立尼崎青少年創造劇場の事業計画「“「観る」「知る」「学ぶ」そして「繋がる」50年へ”行動計画」は、妥当性、有効性、効率性、創造性、持続性において適切に進められていると認められる。

今後も兵庫県立尼崎青少年創造劇場が持つ演劇に適した劇場空間の機能性、演劇学校・舞台技術学校とピッコロ劇団での人材育成力といった自らの強み・特色を活かし、戦略的な事業展開に期待したい。

別紙（中間評価書）

中間評価結果

（可否のいずれかに○を附す）

継続

可

否